

授業改善プラン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校
-----	----------	-----	-------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の数学の平均正答率を見ると、どの問題形式も全国平均を上回っているが、短答式や選択式の正答率に比べ、記述式の正答率がやや低い。
- 記述式の問題については、頭ではある程度正解にたどり着いている様子が見られるが、それを言葉で説明するとき、「必ず用いなければならない用語や表現がわからない」、「書き方が不十分であるために正解に至っていない」という点が全ての問題に共通している。
- 「自己有用感」に対応する生徒質問紙調査の結果を見ると、全国平均と比べて大きく下回っている。このことから、「自分にはよいところがある」と感じていない生徒や、「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じていない生徒が多い。
- 学校質問紙調査の「数学科」に関する質問に対する肯定的回答が、令和4年度も全国平均に比べて下回っている。数学の授業について改善する必要があると強く感じている。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 授業で記述式の課題に取り組む際、相手にわかりやすく、相手が正しく理解できる言葉で説明するよう指導する。口頭で説明することができるようになれば、正しい解答を記述できるようになると考える。
- 振り返りシートを活用し、自分の言葉で考えをまとめさせる。毎回振り返りを行っていく中で、自分の変容（学び）を実感させることができれば、自己有用感が高まると考える。

3. 具体的な実践

- 普段の授業の中で、生徒に「なぜ」と問い返す場面を意図的につくり、自分の言葉で説明させる。また、グループ学習を取り入れ、自分の言葉で説明する場面をつくる。
- 振り返りシートを活用し、授業で学習した用語や表現を使って自分の考えを記述するよう指導する。そして、記述などの内容から、生徒の思考や考えについての変容を分析していく。
- 全国学力・学習状況調査を意識した問題を毎学期定期テストに出題し、結果を分析する。

4. 成果

- ほぼ毎回の授業で、生徒に「なぜ」と問い返す場面や、記述をする場面を意図的につくったことで、自分の言葉で説明しようと課題に取り組む生徒が多くなった。
- 授業の中で記述の問題を出しても、無解答の生徒がほとんど見られなくなった。また、生徒の振り返りの記述の中に、数学の用語が多く見られるようになった。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の記述式の問題において、正解、もしくは正解に近づく解答を書くことができた生徒が増えた。また、無解答率も減った。

◆担当指導主事から（東葛飾教育事務所 指導主事 竹蓋 大毅）

- 問い返しや対話を意識した「広げ深める」過程を通して、解答を導き出した根拠や理由を自分の言葉で説明しようとする生徒が増加した。また、生徒が説明する機会を増やしたことにより、記述式問題の無解答率が大幅に減少した。さらに、振り返りの記述の中に数学の用語が多く見られるようになり、知識及び技能の定着にもつながった。